



PISA

IN FOCUS

2

education policy education policy education policy education policy education policy education policy education policy

成績の改善:下位層の底上げ

- 2000年調査以来、読解力の平均得点が改善した13か国のほとんどで、成績の上昇が成績下位の生徒の成績を大幅に改善することによってもたらされたと考えることができる。
- これら13か国のほとんどで、成績上位の生徒と下位の生徒との読解力における点差が狭まり、中には、成績への生徒の社会経済的背景の影響が2000年から2009年にかけて弱まっている国もある。
- これら13か国のほぼすべてで、女子の読解力の成績が向上したが、男子の読解力の成績は5か国でしか向上していない。

すべての国で、生徒の読解力の成績を改善することができる。

PISA2000年調査と2009年調査はともに読解力に焦点を当てているため、生徒の読解力の得点がこの期間でどのように変化したのか、詳細にたどることができる。両調査の結果が比較可能な26のOECD加盟国中、チリ、ドイツ、ハンガリー、イスラエル、韓国、ポーランド、ポルトガルで、そして非OECD加盟国のアルバニア、ブラジル、インドネシア、ラトビア、リヒテンシュタイン、ペルーで、読解力の成績が全体的に改善している。これらの多様な国々が生徒の読解力のレベルをあげることに成功したという事実は、このような改善が国の文化的状況や調査当初の状態に関わりなく可能であることを示している。例えば、韓国はすでに2000年調査で最上位国の1つであったが、2009年ではさらに成績が向上しており、ポーランドはOECD加盟国の平均以下であったのが平均以上となり、チリは、比較的下位であったのが他のOECD加盟国にかなり近い順位まで上昇している。

この期間に成績が改善した国々のほとんどで、成績下位者の割合が減少しており、PISA調査の基準となっている読解力の習熟度レベル2以下の生徒数が、2000年よりも2009年で有意に少なくなっている。つまり、これらの国の多くで、2000年から2009年にかけて学習成果がより平等なものになったことを意味している。OECD加盟国全体の平均では、成績下位者の割合がほんのわずかしかなかったが、チリではその値が15歳の生徒のほぼ半分(48%)から3分の1以下(31%)に下がり、ポルトガルでは26%から18%未満、ポーランドでは23%から15%とOECD加盟国の平均以下になっている。韓国の成績下位者の割合は変わっていないが、その割合はすでに2000年調査で最も少ないものの1つであり、韓国の生徒のほとんどすべてが基準レベル以上の読解力の習熟度を示している。



PISA

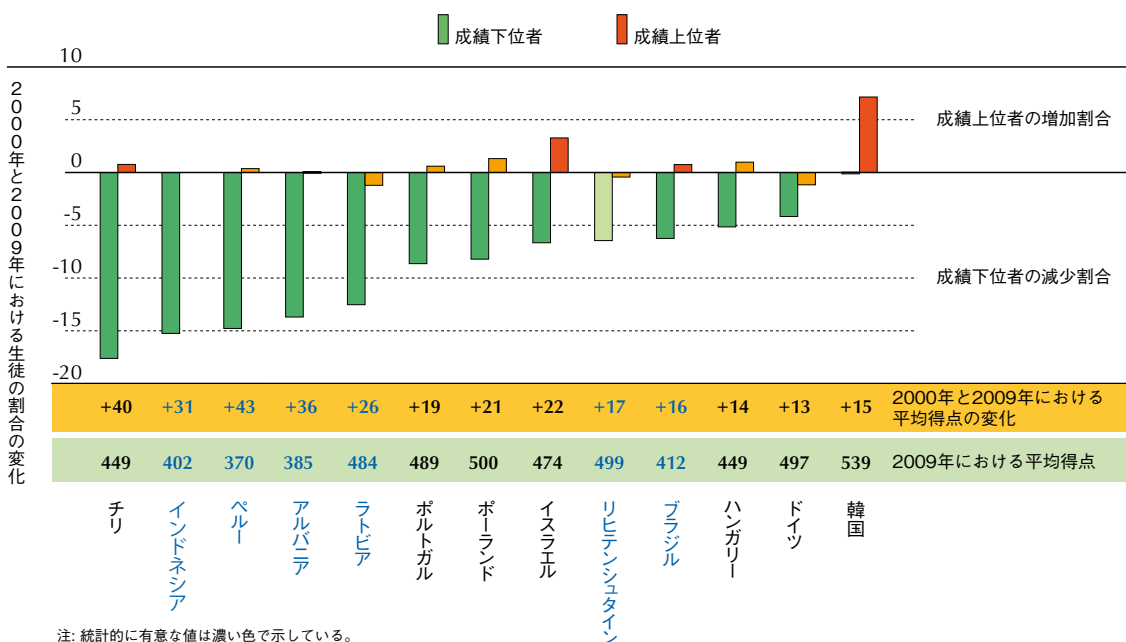
IN FOCUS

成績下位の生徒の成績を改善することは、
成績上位の生徒を犠牲にして
実現されたわけではない…

成績下位の生徒の成績が上がった国で、成績上位の生徒の成績が低下した国は存在しない。実際、イスラエル、非OECD加盟国のアルバニア、ペルーでは、すべてのレベルの生徒が改善している。チリ、インドネシアでは、成績上位の生徒は成績下位の生徒よりも小さいながら、成績が良くなっている。一方、ドイツ、ポーランド、ポルトガル、非OECD加盟国のラトビアでは、成績下位者の読解力の成績は改善したが、成績上位者の成績は2000年から2009年にかけてほぼ同じであった。

韓国、そしてある程度だが非OECD加盟国のブラジルでは、一般的な傾向の逆に向かっている。成績下位の生徒の成績が一定レベルにとどまっている一方で、成績上位の生徒の成績が改善している。実際、韓国では、PISA調査の読解力で習熟度レベル5以上に達した生徒の割合が2倍以上になった。この伸びは、主に女子の改善によるものである。韓国においては、読解力で基準となる習熟度レベル2を下回る生徒はほとんどおらず、生徒の成績の差も依然として小さい。

読解力における2000年からの成績下位者、成績上位者割合の変化



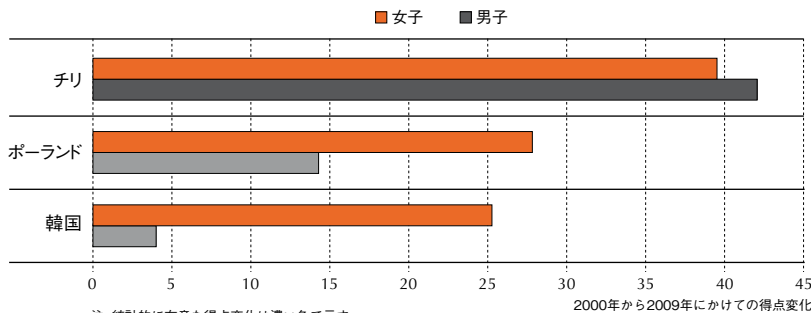
注: 統計的に有意な値は濃い色で示している。
出典: OECD, PISA 2009 Database, Tables V.2.1 and V.2.2.



…成績下位者の成績を改善することは、通常、学習成果をより公平なものにするのに役立つ

チリ、ドイツ、ハンガリー、ポーランド、ポルトガル、非OECD加盟国のインドネシア、ラトビア、リヒテンシュタインでは、成績上位の生徒と下位の生徒との差が縮まったが、全体の成績は向上している。これらの国のすべてで、成績の格差は今やOECD加盟国の平均以下か、それに近いものになっている。さらにPISA2009年調査の結果では、チリ、ドイツ、非OECD加盟国のアルバニア、ラトビアでは、成績に対する生徒の社会経済的背景の影響が有意に弱まっている。韓国では成績に対する社会経済的背景の影響が強まっているが、他のOECD加盟国ではそれは弱まり続けている。

男子と女子における読解力得点の改善



注: 統計的に有意な得点変化は濃い色で示す
出典: OECD, PISA 2009 Database, Tables V.2.4.

読解力の得点における男女の格差は、2000年から2009年にかけてさらに固定化した…

すべての国で、女子は男子よりも読解力において優れており、それが2000年の最初のPISA調査以来続いている。読解力の成績における男女の格差が年を追うごとに広がっているのは、女子の成績が良くなっているのか、それとも男子の成績が大きく下がっているのか、どちらかに原因がある。例えば、韓国では、この期間を通してPISA調査の読解力では女子の成績は改善したが、男子の成績はほとんど変わっていない。ポーランドでは、女子の読解力の得点は、男子の得点のほぼ2倍向上している。チリは、男女とも2000年から2009年にかけて成績が改善した珍しい国の1つであるが、PISA調査に参加したすべての国・地域の中で、読解力の得点で男女の格差が最も縮まった国の1つでもある。

全体的に見て、女子の読解力の得点は13か国で有意に改善したが、男子の得点は5か国でしか改善していない。女子の得点は、2か国でのみ下がったが、男子の得点は8か国で下がっている。PISA調査の基準である読解力の習熟度レベル2に達していない男子の割合が増えることは、楽しみとして本を読む男子の割合が——特に恵まれない家庭の出身者で——落ち込んでいることに関連している。この結果は、両親、教師、政策立案者が少年たちに家庭と学校の両方でもっと本を読む気にさせるような創造的な方法を見つけ出す必要があることを示唆している。

成績下位者とは、PISA調査の基準である習熟度レベル2に読解力において届かなかった生徒である。レベル2では、生徒はテキストにある主要なアイデアを認識し、関係を理解し、情報が明確でない時でも意味を推論することが求められる。**成績上位者**は、習熟度レベルが5以上に達した生徒である。レベル5以上では、生徒は見慣れない内容や形式のテキストについて、詳細かつ十分に理解することが求められる。

ある国の**成績最下位の生徒**とは、同じ年の者の90%よりも得点が低い者のことである。ある国の**成績最上位の生徒**とは、同年代の者の90%よりも成績が高い者のことである。



PISA

IN FOCUS

…そして、恵まれない少年は、とりわけ弱い立場に置かれたままである。

ほとんどの国で、成績の良いくない生徒は、主に社会経済的に恵まれていない家庭出身の少年たちである。PISA調査の結果によれば、この少年たちは社会へ参加するのに必要とされるスキルや能力をまったく備えていないことが示されている。実際、恵まれない少年たちは、いくつかの国に見られる成績下位者の平均読解力得点における有意な改善からほとんど恩恵を受けていない。全体としての成績が素晴らしく、2000年から2009年にかけても有意な改善を見せた韓国においてさえ、社会経済的に恵まれない少年たちは平均得点が483点であり、チリ、ポルトガル、ポーランド、イスラエル、ハンガリー——これらの国では成績下位者の割合が2000年から2009年にかけて減少している——においても、社会経済的に恵まれない少年たちは、他の者よりも成績がはるかに下回っている。そして、OECD加盟国の平均では、男女の格差は、社会経済的に恵まれた生徒の間でよりも、恵まれない生徒の間で大きくなっている。

成績下位者の成績を押し上げる万能な政策は存在しない。

様々な政策転換(チリ、ポルトガル)、恵まれない生徒、主に移民の生徒を対象にした政策(ドイツ)、全面的な教育改革(ポーランド)は、それぞれのやり方で、それぞれの特殊な文脈の中で、成績下位者の得点レベルをあげるのに役立ってきた。PISA調査の結果によれば、最も改善した国々や上位にある国々では、明確で意欲的な政策目標を掲げ、生徒の成績をモニターし、個々の学校により多くの自律性を与え、15歳児全員に同じカリキュラムを提供し、教師の育成や能力開発に投資し、成績下位の学校や生徒を支援することが行われている。

結論：成績下位の者の読解力の得点を改善することは、すべての国で可能なだけでなく、学習成果の不平等を減らし、国全体の読解力の得点を改善するのに不可欠である。

本稿に関するお問い合わせ先

担当: Maciej Jakubowski (Maciej.Jakubowski@oecd.org)

出典: PISA 2009 Results, Learning Trends: Changes in Student Performance Since 2000 (Volume V)

参考サイト:
www.pisa.oecd.org

次回テーマ:

「学校の正規の授業以外での授業に投資することは、報われるのか？」

本稿の翻訳は、日本のPISAナショナルセンターが担当しました。